

予報期間 12月19日から12月25日まで

## ◆今期間のポイント

## &lt;主要しょう乱の概要&gt;

- 21日は、低気圧がオホーツク海を北上して前線が北日本付近を通過する。本州南岸で発生した低気圧が東へ進む。
- 21日から23日にかけて、高気圧が朝鮮半島北部から北日本付近を通って千島近海へ移動する。
- 24日から25日にかけて、日本付近を気圧の谷が通過する。

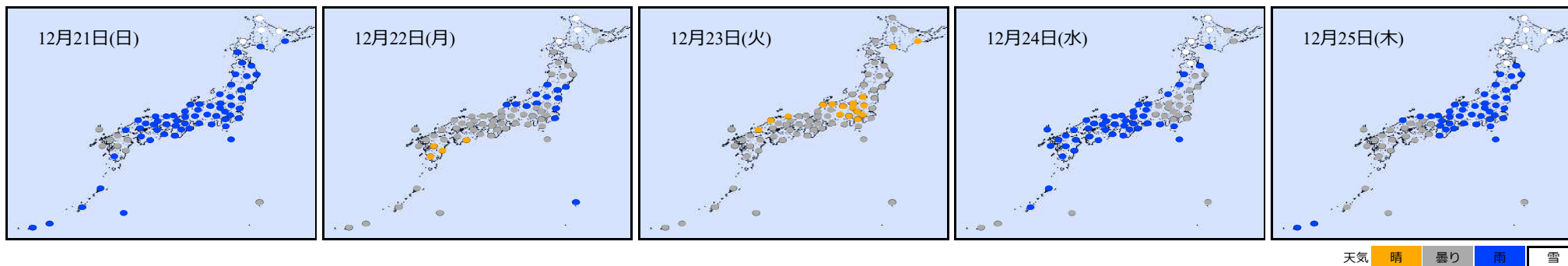
&lt;防災事項&gt; 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

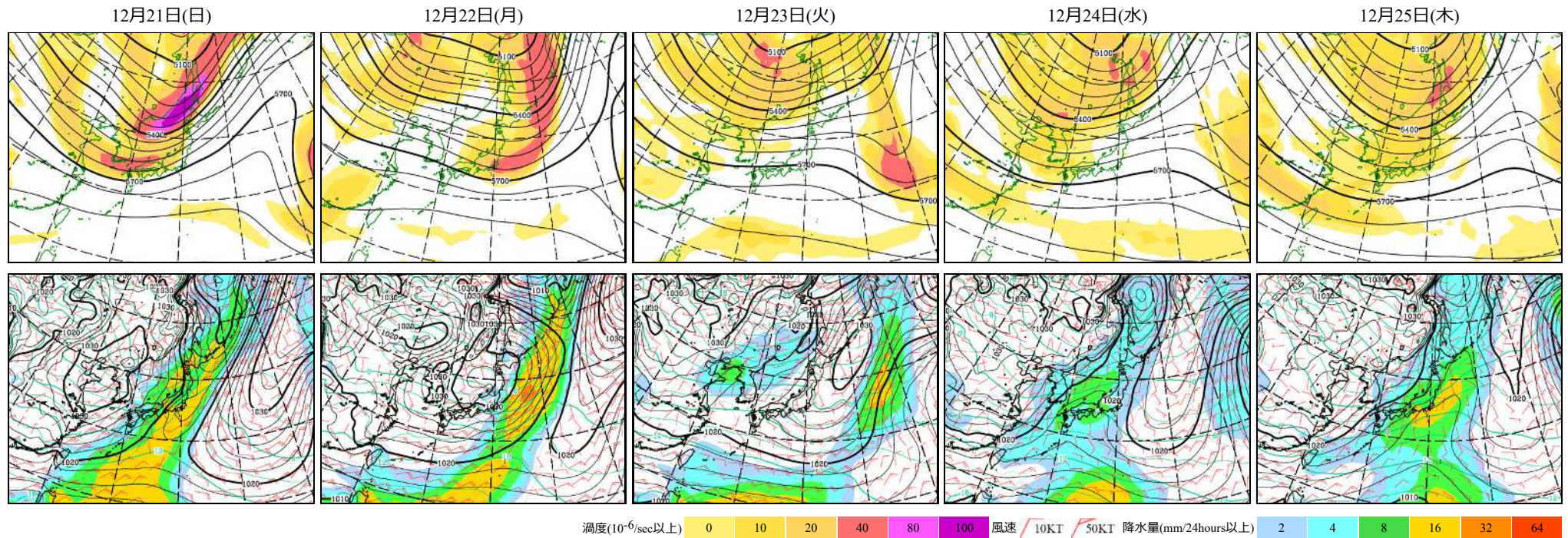
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

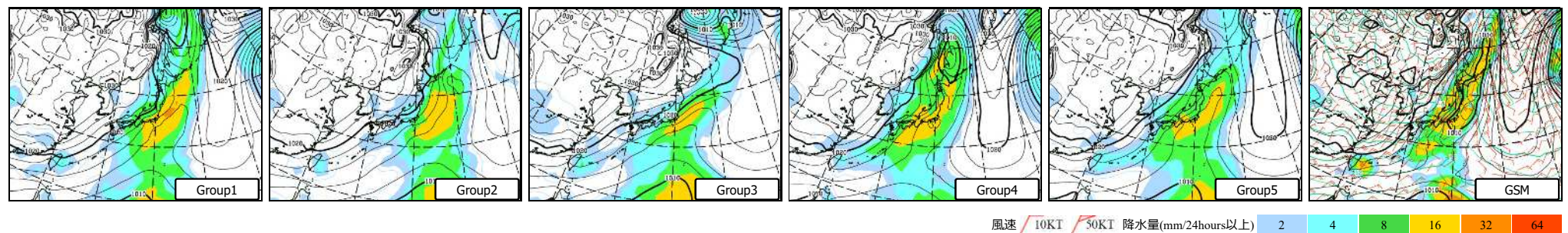


- 北日本と東日本から西日本の日本海側は、晴れる所もあるが、曇りや雨または雪の降る日が多い。
- 東日本太平洋側は、曇りや雨の降る日が多いが、23日は晴れる所がある。
- 西日本太平洋側は、曇りや雨の降る日が多いが、22日は晴れる所がある。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆12月25日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、21日は日本の東の気圧の谷が深くなり、朝鮮半島付近の高気圧が強くなった。22日は北日本付近の高気圧が南東に寄った。
- 期間の後半にENSで気圧の谷となっている所は、各モデルでは低気圧と前線を予想しており、東西の位置は概ね一致しているが、南北の位置には差がある。
- 降水確率ガイダンスの値は、21日は九州で小さくなり、22日は北陸で大きくなった。
- スプレッドは期間を通して小さい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。